

# 世界の子どもに奉仕を

世界的な社会奉仕団体「国際キワニス」のシェーン・エリクソン会長(63)が、日本地区の総会のために今月来日し、読売新聞のインタビューに応じた。日本地区の中心的な団体である「東京キワニスクラブ」(千代田区)について、エリクソン会長は「今後も、日本や世界各地の子どもたちに奉仕することを期待している」と述べた。

「国際キワニス」

シェーン・エリクソン会長



米国発祥のキワニスクラブは、ロータリークラブ、ライオンズクラブと並ぶ「三大国際奉仕団体」の一つで、子どもへの支援に力を入れているのが特徴だ。

東京キワニスクラブは1964年、アジア初の組織として設立された。日本国内では現在、35クラブに計約2000人の会員がいる。東京キワニスクラブでは、

2001年から入院中の子どもたちに手作りの人形を贈る活動を行っている。白い生地で作られた人形は長さ約40センチ、重さ約50グラムで、小さな子どもが抱きかかえやすい大きさ。子どもたちが自由に顔や服を描いたり、治療内容を分かりやすく説明するために医師が患部を描き込んだりできる。

15年からは、地域の子どもたちに無料で食事をふるまう「子ども食堂」も実施してきた。

こうした実績を踏まえ、エリクソン会長は「東京キワニスクラブは力強い活動をしている。子どもたちのニーズに応える活動を続けてほしい」と語った。